

令和 3 年度 清原南小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重を基盤に，知・徳・体の調和のとれたたくましい児童の育成を目指し，日本の伝統や文化を大切に，平和な国家の形成者として，21世紀を担う心身ともに健康で心豊かな子供を育成する。

たくましい子 元気に運動し，健康でたくましい心と体をつくる。

思いやりのある子 ルールやマナーを守り，協力して生活する。

よく学ぶ子 基礎・基本を身に付け，進んで学習する。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

恵まれた自然環境と，145年の長い歴史と伝統を有する本校に勤務することに誇りと責任をもち，子供への愛と同僚との和をもって児童・保護者・地域の方々と共に歩み，自らの資質を高めるとともに自己変革に努め，教育目標達成のために全力を尽くす。

また，先人に感謝しつつ，母校への誇りと自分の尊厳を高めるような教育活動を展開し，持続可能な社会の担い手となる子供たちに「未来を拓く人間力」を身に付けるため，学び合う集団の育成に取り組む。そのために，児童・教職員・保護者・地域が連携し，多様な活動を通して地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 地域に開かれ地域とともにある学校づくりの推進
- (2) ○成長し続ける基盤となる知・徳・体のバランスのとれた力の育成
- (3) ○新たな時代を生きるために必要な資質・能力の育成
- (4) 多様な教育的ニーズに対応した指導・支援の充実
- (5) 学び続ける教職員として資質とチーム力の向上
- (6) 教育の重点化，ICTの活用，協働体制の確立による教育の効率化と教職員の働き方改革の推進

[清原地域学校園教育ビジョン]

自己を見つめ，自己のよさを生かした夢の実現に向けて，主体的に取り組む児童生徒の育成
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法，同施行規則，新小学校学習指導要領等の法令並びに栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」，宇都宮市教育委員会の「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」「令和3年度指導の重点」を踏まえて，公教育の立場を堅持し本校の教育目標達成のため，調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 各教科の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列して，それぞれが充実した調和と統一ある教育課程を編成する。
- (3) 「うつのみや学校マネジメントシステム」の結果を受け，本年度の学校教育目標・学校経営の方針を踏まえて，実態に応じた指導が計画的に行われるようにし，PDCAサイクルを確立して改善を図る。
- (4) 「地域とともにある学校」作りを推進するため，地域の特性や願いをもとに児童に必要な資質・能力を明確にし，地域の人的・物的資源を活用して，社会に開かれた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・チーム及び個人のスキルアップを図る中で，学校運営への積極的な参画を目指す。
- 清原地域学校園構想と小中一貫教育としての取組に基づき，体験活動や読書活動等を通して，児童の「生きる力」を育む。
- ・協働と分業のバランスを見極め，時間の効率化と質の向上を目指して業務の見直しを推進し，児童と向き合う時間の充実を図る。
- ・地域の教育力や資源を活用し，教職員の働き方改革を推進するとともに，活力ある教育活動を行う。

【学 習 指 導】

- ・児童に明確な課題意識をもたせ，各教科の「見方・考え方」を働かせて課題にじっくり取り組める発問や学習活動を工夫する。
- ・教師のコーディネート力の向上を図り，伝え合い高め合える学級集団の育成に努めるとともに，協働して課題に取り組む態度を養う。
- ・図書や資料を効果的に活用し，必要な情報を得て考えを深めたり，知的好奇心を高めたりする児童の育成に努める。
- ・GIGAスクール構想推進に向け，ICTを効果的に活用した授業展開を図る。
- ・SDGsや郷土学習等，新たな課題の解決に向け教科横断的な視点にたった資質・能力の育成に努める。
- ・一人一台の端末を活用しながら，家庭学習への取組を奨励するとともに，家庭への啓発を図る。
- ・積極的な授業公開を通して児童の学習上の課題解決の手口を考えたり，効果的な取組を共有したりし，資質の向上と学び合う

教師集団の育成を図る。

【児童生徒指導】

- ・学級経営力を高めるとともに多様なニーズに応じた支援を行って、全ての児童にとって居がいのある学級作りに取り組む。
- ・児童の参画型の行事運営や自主的な児童活動を推進して児童の主体性やたくましさを育て、自ら判断し行動する児童の育成を図る。
- ・異学年交流活動を推進し、児童のリーダーシップ及びフォロアーシップ、自己肯定感の醸成を図る。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」の有機的な関連を図り、健康に生活できる心身の育成を目指す。
- ・自ら積極的に運動し、健康でたくましい心と体をつくろうとする児童の育成を図る。

○組織的計画的な部会運営を推進し、効果的な指導を実践する。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
指導する児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 児童肯定的回答 85%以上	①意欲を高め、見通しをもって学習できるねらいを提示する。 ②実社会や実生活に関連し、児童が興味や関心をもてるように教材・教具を工夫する。 ③児童が単元の見通しをもてるようなワークシートの作成を工夫するとともに、次の学びへとつなげていく毎時ごとの学習の振り返りを大切にする。 ④主体的・対話的で深い学びの実現に向け、児童が考えを整理できるような思考ツールやICT機器を活用した学習形態を取り入れる等、お互いの考えを共有できるように工夫し、学び合いを進めていく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 92.3%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・意欲を高め、見通しのもてる学習ができるねらいを毎時間ごとに提示し、児童が主体的に学習に取り組める授業を実践する。 ・単元の見通しをもてるようなワークシートの作成や発達段階に応じた「振り返り」の時間の確保に努める。 ・ICT機器を活用した学習形態を取り入れる等、お互いの考えを共有できる学び合いの場を工夫する。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童肯定的回答 85%以上	①道徳的価値を自分との関わりの中から捉えられるような道徳の授業を実践し、生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。 ②係活動や当番活動等、周囲のために活動する場を積極的に設定し、自己有用感を高める。 ③読み聞かせボランティアだけでなく、教職員による読み聞かせを行うことで、本とのふれあいをさらに充実させる。併せて、読書啓発活動やファミリー読書を推進し、豊かな心を育む。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 89.9%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度と同様、いじめゼロ強調月間や人権週間の取組を充実させるとともに、道徳の授業実践を通して自己有用感を高めていけるよう努める。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 児童肯定的回答 85%以上	①「<u>清原地域学校園の方針・約束・一日</u>」を教室内に掲示し、日常の指導に活用する。 ②生活当番班の担当期間を2週間とし、児童の実態に基づいて設定した「生活目標」の下、全職員の共通行動によって児童の基本的な生活習慣の確立を図る。 ③決まりやマナーを守った行動に対し、児童が互いに認め合う機会や教師の称賛を行うことによって規範意識を高める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 87.3%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度と同様、「清原地域学校園の方針・約束・一日」を基に、日常の指導の充実を図っていく。 ・児童の実態に基づいて設定した「生活目標」の下、全職員の共通理解により同様の指導を行うことで、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。

A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 児童肯定的回答 85%以上 地域肯定的回答 85%以上	①年間を通して児童会が主体となり「あいさつ運動」を行うが、児童同士の接触や密集をできるだけ避け、工夫した実践を展開する。 ・標語の募集 ・啓発ポスターの作成 等 ②発達段階に応じてあいさつの意義や心的効果について指導し、自発的なあいさつの啓発に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 94.4%、地域の肯定的回答は 91.7%であり、どちらも目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・目標を達成しているものの、実態として挨拶の声が小さかったりできていなかったりするため、引き続き発達段階に応じた挨拶の意義や効果について指導を行い、啓発に努める。
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 児童肯定的回答 80%以上	①本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組むことができるような授業を工夫するとともに、縄跳び検定や鉄棒検定等の各種検定表を活用し、自主性を育む。 ②各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設け、児童の自己肯定感を高める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 85.2%であり、目標を達成することができた。昨年度と比べ 1.6%減となっているが、新型コロナウイルス感染拡大防止による行事削減等が理由になると考えられる。 【次年度の方針】 ・今年度と同様、授業においては、めあてを明示することで見通しのもてる授業を展開するとともに、称賛できる機会を設け児童の自己肯定感を高められるようにしていく。 ・検定等においては、学年の発達段階にあったものを準備し積極的に活用することで達成感を味わえるようにする。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活をしている。」 児童肯定的回答 85%以上	①新型コロナウイルス感染症に対する正しい理解に努め、感染防止への取組を継続して実践することで習慣化を図り、新しい生活様式を定着させる。 ②自分の身は自分で守る意識を高め、適切な判断力と行動力を身に付けるため、交通安全・生活安全・災害安全について、避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施する。併せて、一斉下校と班長会議を実施し、交通ルールや安全な登校の確認を行う。また、週毎に設けた生活目標と関連を図りながら学校の決まりや安全な過ごし方を定期的に確認する場を設け、けがのない安全な生活についての意識付けを図る。 ③家庭と連携を図りながら、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成を図る。 ・お弁当の日の実施 等	【達成状況】 児童の肯定的回答は 93.1%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度と同様とするが、新型コロナウイルス対応については、緊張感をもって感染防止に努めるよう日々の声掛けや生活目標等で充実を図りたい。 ・登下校時の交通安全については、交通安全教室等で身に付けた知見を用いて実践できるようにしていく。指導が必要な場合、早急に指導をして改善できるようにする。 ・お弁当の日やおにぎりの日など家庭と連携を図る行事を活用し、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成を図る。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるように努力している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 児童肯定的回答 80%以上	①「清南ドリームプロジェクト」の「私の夢」は継続して揭示し、望ましい勤労観や職業観の醸成を図る。 ②キャリア・パスポートの考え方を基に、学習の様子や活動の振り返りを積み重ねることによって自己理解を深め、将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 85.2%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度と同様、「私の夢」は継続して揭示し、望ましい勤労観や職業観の形成を図る。 ・全職員でキャリア・パスポートの考え方について共通理解を図り、同一歩調で取り組むことを通して、学習の様子や活動の振り返りを積み重ねて自己理解を深めたり、将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成していく。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 児童肯定的回答 85%以上	①英語によるやり取りを中心とした授業を展開することにより、児童が英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度を養う。 ②引き続きALTの活用を積極的に進め、生きた英語に触れる機会の充実を図る。 ③中学年のローマ字の授業から、書くことを意識した指導を行い、高学年の英語にスムーズにつなげていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 92.3%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・児童が英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度を養えるよう、英語によるやりとりを中心とした授業の実践や積極的なALTの活用を進めていく。 ・ローマ字の授業を大切にし、書くことを意識した指導を行うことで、高学年の外国語科につなげていく。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」 児童肯定的回答 80%以上	①生活科や社会科、総合的な学習の時間の「宇都宮学」を通して、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。 ②各教科・領域において地域の教育資源や資料等を積極的に活用し、地域の良さを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養う。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 85.4%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間の「宇都宮学」を通して宇都宮の良さを理解し、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。 ・各教科・領域において地域の教育資源や資料等を洗い出し、今後も積極的に継続活用ができるようにしていく。
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 70%以上	①教職員が、授業で効果的にICT機器を活用できるよう、ICT支援員と連携した校内研修等を実施して教職員の技能向上を図り、児童がICT機器に慣れ親しみ、適切に活用できるようにしていく。 ②各教科等の年間指導計画に図書の利用を適切に位置付けるとともに、学校図書館司書業務と連携して計画的な図書資料の充実を図る。 ③ICT機器を活用する際、情報を適切に扱うことができるよう、情報モラルを意識した指導に努める。 ④個人用PCを活用した学習の様子を各種たよりやホームページで積極的に発信する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.7%、保護者の肯定的回答は 84.3%であり、ともに目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・まずは教職員がICT機器を活用できるよう校内研修等を実施し、技術向上を図ることで、児童がICT機器に慣れ親しむことができるようにしていく。 ・学校図書館部会の発表に向けて築いてきた研究成果を活かし、学校図書館司書業務との連携を密に取りながら、計画的な学校図書館の活用と図書資料の充実を図る。 ・個人用PCの活用が定着しつつある今、さらに児童が情報を適切に扱うことができるよう、情報モラルを意識した指導に努めていく。
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童肯定的回答 85%以上	①「昔遊び」や「七輪体験」、「田植え体験」等、学習内容や発達段階に応じて地域の高齢者とのふれあいを深める機会を設け、高齢者に対するいたわりの心や豊かな人生経験への尊敬の心を養う。 ②相手を思いやり、時と場に応じた言葉遣いや行動がとれるよう、指導の充実に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 89.9%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度は、各学年で中止となった行事があるため、次年度も実施可能な「感謝の会」等の行事を通して地域の方々と高齢者への感謝やいたわりの心をもてるよう指導する。また、行事の中止等も踏まえ、これまでとは違った形の体験的行事の立案を検討していく。 ・各学年教科横断的な指導を推進し、思いやりの心を育み実践化に結び付けられるようにしていく。

目 指 す 学 校 の 姿	A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」児童肯定的回答 80%以上	①校内研修等を通して、教職員の「持続可能な社会」への認識を高め、全教育活動において命やものを大切にする意識を育み、児童の「持続可能な社会」への実践力を養う。 ②社会情勢を踏まえながら学校行事や委員会活動において、ゴミの減少やリサイクル、緑化活動を積極的に行い「持続可能な社会」に参画しようとする態度を養う。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 86.8%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・命やものを大切にする意識を育み、児童の「持続可能な社会」への実践力を養なえるよう、全教科・領域の年間指導計画に確実に位置付けていく。 ・今年度設置された雨水タンクを活用した緑化活動の推進等、各委員会活動と児童が実体験できる取組を結び付け、「持続可能な社会」に参画しようとする態度を養う。
	B 1 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケート「私は、宿題や自主学習をすることが習慣化されている。」 「自分の子供は、宿題や自主学習をすることが習慣化されている。」 児童・保護者回答 80%以上	①予習復習の大切さを理解し、発達段階に応じて「自分で課題を設定する力」や「見通して学習する力」を身に付けられるよう、授業参観や個人懇談、学習日より、「清原っ子家庭学習の約束」を通じて保護者と情報を共有し、家庭学習の啓発を図る。 ②自主学習の取組を掲示したり、学年だより等でよい取組を広めたりする等、児童のよさや努力を認めて称賛する機会を積極的に設け、自主学習への意欲付けを図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 82.8%、保護者の肯定的回答は 81.2%と、ともに目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・授業参観や個人懇談、学習日より、「清原っ子家庭学習の約束」を通じて、引き続き保護者と情報を共有し、協力を得ながら家庭学習の啓発を図っていく。 ・発達段階に応じて自主学習の取組を提示したり、学年だより等でよい取組を広めたりする等、児童のよさや努力を認めて称賛する機会を積極的に設け、自主学習への意欲付けを図っていく。
	B 2 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、休み時間や放課後などに進んで運動している。」 児童肯定的回答 80%以上	①児童が能力に応じて進んで運動できるような運動機会の工夫や拡充・日常化に努める。 ②各種検定（水泳・鉄棒・なわとび）の実施や「うつのみや元気っ子プロジェクト」のミニマム達成を目指した体育の授業実践、検定表の地域学校園での見直し等、連携を図った取組を推進する。 ③ICT機器を活用し、模範的な動きを児童に示すことで分かる授業を展開するとともに、運動への意欲付けを図る。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答は 73.5%であり、目標を 6.5 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・休み時間に担任や教職員と一緒に進んで運動をしたり、外遊びを推奨したりして体を動かす楽しさを味わわせる。また、サーキットトレーニングや筋持久的な運動を取り入れ、活動量が多い授業を展開する。 ・各学年の発達段階に応じた内容の検定カードを作成し、児童が自発的に運動に取り組めるようにする。 ・ICT機器を活用することで、よりよい動きや練習方法を知るきっかけを作り、児童が主体的に学べるようにする。
	A 13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童当の実態に応じて、適切な支援をしている。」 教職員肯定的回答 90%以上	①児童指導主任や特別支援コーディネーターを中心に、職員会議時の児童に関する情報交換を活用して特別な支援を必要とする児童の実態や支援の手立てについて共通理解を図り、組織的な支援に当たる。 ②児童の記録やQ-Uアンケート、ケース会議の内容等を活用し、個に応じた支援の下に分かりやすい授業を展開する。 ③特別支援学級に加え、通常の学級において特別な支援を必要とする児童についても、個別の指導計画を作成し、それに基づいた指導を行う。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.8%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・児童指導主任や特別支援コーディネーターを中心に組織的な支援を継続していく。 ・学年内で日常的に児童指導面での共通解を図り、児童理解を深める。 ・児童の記録やQ-Uアンケート、ケース会議の内容等を活用し、個別最適な学びが実現できるよう教材研究を行うことで、分かりやすい授業を展開する。 ・個別の指導計画を作成し、それに基づいた指導を継続的に行う。

A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 児童肯定的回答 90%以上	①いじめは絶対に許されないという考えの下、「清原南小いじめ防止基本方針」に基づいていじめ防止のための組織的・計画的な取組を推進する。 ②いじめアンケートや教育相談を通して、いじめの早期把握に努めるとともに、被害者の立場に立って継続的に関わることにより、確実な解消を目指す。 ③「いじめゼロ集会」や標語募集、関連する道徳の授業の実践等、学校のいじめ未然防止の取組を積極的に発信し、保護者の理解と協力を得られるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 98.1%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・「清原南小いじめ防止基本方針」に基づいていじめ防止のための組織的・計画的な取組を推進する。 ・定期的に位置づけられたいじめアンケートや教育相談を実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・児童会主催による「いじめゼロ集会」や標語募集、関連する道徳の授業の実践等を通して、学校のいじめ未然防止の取組を積極的に発信し、保護者の理解が得られるようにしていく。
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 教職員肯定的回答 90%以上	①各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設け、児童の自己肯定感を高める。 ②Q-Uを生かした学級集団の実態把握と分析を行うとともに、教育相談の結果を生かし、学業指導の考えに基づいた、帰属意識と規範意識を高める学級経営を行う。 ③新たな不登校を生まない取組を推進し、スクールカウンセラー等を活用する等児童理解に努めるとともに、保護者と児童の様子についての情報を共有し、共に支援していく関係を構築する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・教育活動全体を通して、児童の自己肯定感を高める場を積極的に設定する。 ・Q-Uを生かした学級集団の実態把握と分析を行うとともに、教育相談の結果を生かした学級経営を行う。 ・外部機関との連携やスクールカウンセラー等を活用しながら児童理解に努めるとともに、保護者と情報を共有し、共に支援していく関係を構築していく。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 教職員肯定的回答 85%以上	①情報交換により児童の実態把握に努め、特別な支援が必要な児童の共通理解を図りながら児童のニーズに応じた適切な支援を行う。 ②研修や校内支援委員会を通して、適切な支援の方針について知識や理解を深め、関係諸機関と連携しながら組織的な指導体制を構築する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 95.8%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度と同様、情報交換により児童の実態把握に努め、全職員で共通理解を図りながら児童が安心して学校生活を送る上で必要な支援を行っていく。 ・研修や校内支援委員会を通して、個に応じた適切な支援ができるように努める。また、関係諸機関と連携しながら組織的な指導体制を構築していく。
A17 学校は、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。」 保護者肯定的回答 85%以上	①担当清掃場所の清掃手順を整理し、役割分担と道具の扱い方を徹底する等、学校全体で清掃活動の充実を図ることにより、明るくきれいな学校づくりに努める。 ②教育相談や日常の個別指導などを継続して行い、よりよい人間関係の構築に努める。 ③今年度実施した行事等の反省を生かし、児童主体の活動が推進できるよう改善と工夫を図る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 91.6%であり、高い達成状況であった。 【次年度の方針】 ・今年度同様、教育相談や個に応じた指導を継続して行い、よりよい人間関係の構築に努めていく。 ・児童が主体的に計画・実践し、いきいきと活躍できるような行事を設けるようにする。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」 児童肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 80%以上	①児童に育成を目指す資質・能力を明確にし、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、児童が達成感を得られるような「分かる授業」の実践に努める。 ②発達段階に応じた学び合いの形態を工夫するとともに、児童の実態に即した適切な指導ができるよう教材研究に努める。 ③本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組むことができるような授業を工夫する。 ④学習の終末に振り返りを行い、自己の学習状況を振り返って自分の成長を実感させるとともに、次時の課題を明確にし、学習意欲の向上を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 93.7%、保護者の肯定的回答は 86.4%と、ともに目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・新たな学校課題の設定により、校内研修を通じて教員の授業改善を図り、児童の実態に即した指導を行う等、「個別最適な学び」の実現を目指す。 ・本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組んだり、学習の終末に振り返りを行うことで、自己の学習状況を振り返って自分の成長を実感させたりしながら、次時への学習意欲の向上を図る。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 教職員肯定的回答 90%以上	①全職員が学校経営方針や学校課題を理解し、それぞれの役割を果たしながら協働的に取り組むことにより教育目標の達成を目指す。 ②教育活動全体を通して積極的に関わることで同僚性を発揮し、互いの持ち味が活かせる「チーム学校」を構築する。 ③報告・連絡・相談を徹底するとともに、学年主任会や学年会で連携を図りながら学校全体で情報を共有し、組織的に対応に当たる。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 91.7%であり、高い達成状況であった。 【次年度の方針】 ・全職員が学校経営方針や学校課題を理解し、同じ目標を共有して教育目標の達成を目指していく。 ・報告・連絡・相談を徹底するとともに、学年会を計画的に実施する等、学校全体で組織的に対応に当たる。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 教職員肯定的回答 70%以上	①教職員一人一人が勤務時間を意識し、業務の効率化に努めるとともに、休暇等を取得しやすい勤務状況を構築する。 ②校務分掌や学年・ブロック単位の組織で、業務の精選を行うとともに、ミライムや学習情報システム等のネットワークソフトウェアを活用し、業務の軽減や効率化を図る。 ③先に退勤する抵抗感を低減するため、リフレッシュデーを一人一人が異なる日に設定できるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 50%と達成状況は低いものの、前年度を 7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・教職員一人一人が業務の効率化に努め、業務内容を精選し、働きやすい職場環境を構築する。 ・リフレッシュデーを意識し、一人一人が退勤時刻を守り、超過勤務を少なくできるように働きかける。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 「学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。」 児童・教職員肯定的回答 80%以上	①清原地域学校園教育ビジョンに基づき、<u>人との豊かな関わりを通して自らを見つめ直し、主体的に取り組む児童生徒の育成を重点として小中一貫教育を実践する。</u> ②各校の効率的な学校運営を支援するため、学校一人配置職員の連携を密にし、協働体制を構築する。 ③<u>学校園の各部会・分科会での研修や情報交換等を通して、清原地域学校園としての学習面や児童生徒指導面での向上を図るとともに、実践の様子をホームページや各種たよりで発信し、周知に努める。</u>	【達成状況】 児童の肯定的回答は 71.8%であり、目標を約 8 ポイント下回った。 教職員の肯定的回答は 95.8%であり、高い達成状況であった。 【次年度の方針】 ・キャリア・パスポートの活用を通して、自己の将来のビジョンを見通せるような支援を行っていく。 ・学校園の各部会・分科会での研修や情報交換等を通して、各学校間の情報共有を図るとともに、児童への意識付けを図る。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 保護者肯定的回答 80%以上	①各教科・領域において地域の教育資源や資料等を積極的に活用し、地域の良さを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養う。 ②地域協議会や清原地域学校園と連携を図り、外部人材の活用を推進するとともに、協働して教育目標の達成を目指す。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 89.5%であり、高い達成状況であった。 【次年度の方針】 ・地域人材を積極的に活用し、各教科・領域において効果的な学習が図れるようにする。 ・荒井退造などの地域の偉人の生き方や功績を学ぶことで地域のよさを理解するとともに郷土愛を育む。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 地域肯定的回答 85%以上	①地域協議会を中心に地域と学校が目標を共有し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 ②地域や企業との関わりを保ち、オンライン形式で取り組む等、取組内容や方法を工夫しながら実践するとともに、その活動の様子をホームページや各種たよりで発信し、保護者・地域の学校教育への理解と協力を得られるようにする。 ③清原南部地区総ぐるみあいさつ運動や見守り立哨指導等の実施により、児童の望ましい成長を図る。	【達成状況】 地域の肯定的回答は 95.8%であり、高い達成状況であった。 【次年度の方針】 ・感染対策を講じながら実施可能な方法を模索し、学校と連携・協力しながら実践いただいたことが結果につながった。今後も地域や企業との関わりを保ち、取組内容や方法を工夫しながら協力を得られるよう努めていく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 教職員肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 80%以上	①月に一度の全教職員による安全点検並びに生活当番の巡視の機会等を利用した日常的点検を充実させ、危険個所の迅速な対応に努める。 ②危機管理マニュアルを全体で確認し、避難訓練や引渡し訓練等を通して不測の事態への対応に備える。 ③新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた校内整備と自発的な予防に向けた啓発に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 100%、保護者の肯定的回答率は 94.2%であり、どちらも目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度同様、月に一度の全教職員による安全点検並びに生活当番の巡視により、危険個所の迅速な発見・対応に努める。 ・危機管理マニュアルを熟知し、避難訓練や引渡し訓練等を通して、その場の状況に応じて危機を予測し、適切に判断し行動できる児童の育成に努める。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた校内整備を行うとともに、保護者や学校施設を利用する方に対しても自発的な予防の啓発を継続していく。
A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 児童肯定的回答 85%以上	①図書選定委員会を開催したり、学校図書館司書業務と連携したりする等、年間を通じて計画的に図書資料を学習資料として活用できる環境を整備する。 ②教職員が、授業で効果的に I C T 機器を活用できるよう、I C T 支援員と連携した校内研修等を実施して教職員の技能向上を図り、児童が I C T 機器に慣れ親しみ、適切に活用できるようにしていく。	【達成状況】 児童肯定回答率が 90.7%と高い達成状況であった。 【次年度の方針】 ・次年度も学校図書館司書との連携を図り、各教科等の学習において適切に図書資料を活用できるようにする。 ・個人用 PC を中心とした I C T 機器を授業の中で効果的に活用できるよう、教職員の技能向上を図るとともに I C T 支援員との連携を図っていく。

	B3 教師の授業力を高めるため、互いに授業を公開し、教師としての資質・能力の向上に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、校内研修を通して学び合い、自らの指導に生かしている。」 教職員肯定的回答 85%以上	①学校課題における研究の方針を提示し、育てたい児童像を明確にするとともに、それぞれの教職員の専門性を取り入れて考えを深め合えるような校内研修や授業研究会を推進する。 ②研修や研究会のみならず、ブロックや学年内における話し合いの場を多くもつことで OJT を活性化し、同僚性を高める。 ③社会情勢を踏まえ、<u>地域学校園と適切に連携を図りながら研修を推進する。</u>	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.8%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度、図書館部会の公開研究会を行ったことで得た成果を活かし、次年度は新たな学校課題の下、教職員の専門性を取り入れて考えを深め合えるような校内研修や授業研究会を推進していく。 ・ブロックや学年内における話し合いの場を多くもつことで OJT を活性化し、互いを高め合える学校風土を醸成していく。 ・次年度も継続して、地域学校園と適切に連携を図りながら研修を推進していく。
本校の特色・課題等	B4 本や地域、友達とのふれあいを通して人間関係を深め、心の豊かな児童を育成している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、読み聞かせ・農園活動・登下校の見守りの時など地域の方とふれあうことは楽しい。」 児童肯定的回答 80%以上	①学級文庫を新しく入れ替える等、読書の質を高めたり、図書室の「情報センター」としての機能を活用したりすることで、本とのふれあいを促進する。 ②感染症対策を講じながら、<u>あいさつ運動や米作り体験、水辺の楽校体験等の体験農業活動を通して地域とふれあい、地域のよさを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養う。</u> ③感染症拡大防止を踏まえ、縦割り班活動や学校行事の内容を再検討し、児童同士の関わりを大切にしながら思いやりの心や協調性を育む。 ④地域協議会と連携して学習ボランティアを充実させ、教育活動を豊かなものにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 87.0%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・図書館情報部会の公開研究会に向けて築いてきた学校図書館の「情報センター」「学習センター」としての機能を活用することで、本とのふれあいを促進していく。 ・体験活動を通して地域の人々や自然とふれあい、地域のよさを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養えるようにしていく。 ・縦割り班活動や学校行事の内容を、可能な限り児童同士の関わりを大切にした取組になるよう再検討し、思いやりの心や協調性を育む。 ・地域協議会と連携して学習ボランティアの活用を図り、教育活動を豊かなものにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策による教育活動の中止・縮小を余儀なくされ、保護者や地域住民への教育活動の公開の機会がほとんど奪われたことで、年度当初に設定した地域の教育力を生かした活動の実践や本校の教育活動の様子を知っていただくことができなかった。

【学校運営】

・教育相談や個別指導を通して児童のよさを理解するとともに、個に応じた指導を心掛け、よりよい人間関係の構築を図れるよう努めてきたことで、児童はいきいきと学校生活を送ることができた。また、ICT機器を活用したり実施方法を工夫したりしたことで、児童が主体的に学校行事に取り組むことができた。

・教職員が、学校経営方針や学校課題を理解し、「チーム学校」を意識してそれぞれの役割を果たしながら協働的に取り組むことを目指してきた。そのことにより、教育活動全般において組織的にそれぞれの課題に対応することができた。一方、A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」では、指標とした目標指数は達成できなかった。教職員の勤務時間や業務の効率化についての課題が見られ、さらなる業務効率化を図るとともに、OJTの推進、PDCAサイクルによる取組、勤務時間を意識した働き方を推進することで超過勤務の削減を図っていく必要がある。

○小中一貫教育については、清原地域学校園による共通の取組及び職員研修を実施し、各学校間の連携を図ることができた。地域学校園で共通の取組について児童にも伝えるなど、小中一貫教育についての理解を深められるようにする。

・読書ボランティアによる読み聞かせなど、コロナ禍の中で可能な限りの地域ボランティアの活用を図ることができた。また、荒井退造さんを通して地域の偉人の生き方や功績を学ぶ場を設定し、地域のよさを理解することで郷土に対する愛情を育めるようにしていく。

【学習指導】

・すべての項目において目標指数を達成することができたが、昨年度に比べるとやや下がった項目もあった。

・A1「児童は、進んで学習に取り組んでいる」では、目標指数を達成することができた。しかし、昨年度より1.9ポイント下がっており、コロナ禍において学習活動の制限が長く続いたことの影響が少なくないと考えられる。次年度も、児童が学習の見

通しをもち、主体的に学習に取り組めるよう、学びの場の工夫をはじめとした授業改善に取り組んでいきたい。併せて、各種便りを通して学校の取組状況を発信し、保護者の理解と協力を得られるようにしていきたい。

・A10「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」では、児童の達成状況は昨年度同様の数値であったが、保護者の数値が16.7ポイント上がり、目標指数を達成することができた。個人用PCの家への持ち帰りが定着したためと思われる。GIGAスクール構想の推進を図るため、まずは教職員がICT機器を十分に活用できることが求められる。そこで、校内研修の充実やICT支援員の活用により、個人用PCを効果的に用いた授業の展開を目指していきたい。併せて、図書館部会の公開授業研究会の研究成果を元に、計画的な学校図書館の活用を今後も推進し、児童の資料活用能力の育成に努めていきたい。○外国語活動の授業やALTとの交流については、概ね目標指数を達成している。高学年は外国語科となり、学習内容も難しく、「聞く・読む・書く」を意識した授業の展開が必要となってくる。そこで、段階的に外国語に親しみをもてるよう、中学年児童のローマ字指導を丁寧に行い、高学年の外国語科につながるようにしていく。また、学級担任が英語のスキルを高め、児童との英語でのやり取りを中心とした授業が展開できるようにしていく。

【児童生徒指導】

○A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」では、あいさつ運動などの取組が効果を上げ、目標指数を達成しているものの、実態として挨拶の声が小さかったりできていなかったりする児童が少なくなく、個人差の大きいことが課題となった。同様の課題が地域からも寄せられたことから、引き続き発達段階に応じた挨拶の意義や効果について繰り返し指導をしていく必要がある。

・A15「教職員は、不登校を生まないう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている」では、Q-Uや教育相談による実態把握を行うとともに、SC等の外部機関と積極的な連携を図ったことで、良好な結果が得られた。今後も個に応じた指導を推進できるよう、教職員の資質向上を目指していく。

【健康（体力・保健・食・安全）】

・A5「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」の肯定的回答は85.2%であり、目標指数を上回ったものの、昨年度の数値と比べ1.6ポイント減少している。これについては、新型コロナウイルス感染症防止策による行事の削減が影響していると考えられる。すべての行事を削減するのではなく、やり方を変える等内容を縮小して実施し、児童が達成感を成就感を味わえるようにしていく必要がある。

・B2「児童は、進んで運動する習慣を身に付けている」の肯定的回答は73.5%であり、目標を6.5ポイント下回った。昨年度と比べ2.1ポイント増加しているが、目標数値には到達していない。これについても、上記同様新型コロナウイルスによる影響が大きく関係していると思われる。次年度以降も感染症対策の継続が考えられることから、現在の取組を確実に実施することで少しずつ運動への意識改革を行い、運動への意欲を高められるようにしていく。

7 学校関係者評価

【学校運営】

ほとんどの評価項目で高い達成状況であり、次年度の方針もしっかりとしている。また、教職員が同じ目標を共有し、一丸となって業務に取り組んでいることがA17の保護者・児童の肯定的回答率の高さからも読み取れ、時代や地域に即した運営だと思う。一方で、業務の効率化には取り組んでいるものの、あまりにも多忙で長時間勤務になっているのではないかと考える。社会情勢に反する状況であり、先に退勤する教職員の抵抗感を軽減したり、リフレッシュデーを確実に実施したりする等、更なる取組が必要である。

【学習指導】

すべての項目において目標指数を達成でき、すばらしい取組である。その継続をお願いしたい。また、外国語の学習やICT活用、持続可能な社会、宇都宮のよさ等、これからの社会において必要なことであり、児童の関心の高いことは、将来に期待が高まる。一方で、コロナ禍において効果的なICT活用が非常に重要であり、いつでもオンラインでの学習ができる環境が整うとよいと考える。同様に、図書に親しむ指導もお願いしたい。

【児童指導】

感染症防止対策が優先され、行動制限がある中で目標達成できていることは、教職員の努力がうかがえる。その対応に感謝する。いじめに関しては、教職員からの働きかけだけでなく、児童が主催となり集会を行っている。一方的な指導ではなく、児童が積極的に関わっていく環境により思いやりの心が育まれ、いじめに関して子供たち同士で声を掛け合う意識の高さを感じられる。しかし、評価結果を分析すると、いじめに対して、教職員と保護者間で認識の差があると感じる。学校の取組を積極的に開示してほしい。また、校舎内での挨拶はできるが、校外では無言が多い。挨拶の個人差が見られる。

【健康体力】

感染拡大の中、子供たちの健康が保たれているのは、先生方のご尽力の賜物である。また、自分自身を守ることで家族の身を守れることを理解し、感染予防に取り組む意識の高さを感じる。教職員のみならず児童の意識の高いことがすばらしい。一方で、2年間にわたる行事の縮小は残念であり、できる限り行事の実践をお願いしたい。さらに、運動意欲が高まるよう、コロナ禍を踏まえた新たな取組を早急に考えてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度より、学校教育活動への評価方法が変更となり、保護者に関してはPTA会員でのweb回答を、メールを活用しながら依頼した。また、地域住民への評価も、限られた学校公開の中で出席いただいた方に説明しながらweb回答をその場でお願いし、困難な方には例年通りの紙媒体での依頼を行うことで回収率が高くなるよう努めた。しかし、保護者や地域住民の来校機会はほとんどなく、学校の教育活動を十分に把握していただくことができなかったため、学校に関心の高い方の回答に偏ったり有効な回答数が少なかったりしたことは否めない。

このような状況下ではあったものの、保護者の学校教育活動への評価は例年と比べて同等か若干の向上が見られ、どの項目においても市の肯定的回答率を上回る結果となった。学校として限られた機会を逃さずに宿泊学習や校外学習、外部講師による授業を実施したことが結果的に活動の充実につながり、コロナ禍の中で模索しながら活動内容を工夫してきたことが学校の努力として評価されたのではないと思われる。一方、地域住民の学校教育活動への評価は例年と比べて同等か、項目によっては若干下回る結果となった。市の肯定的回答率と比べても下回る項目が出たことは、地域への発信方法を見直す等、改善が必要であると考ええる。

次年度に向けては、以下について取り組んでいきたい。

- ・ 働き方改革の推進は喫緊の課題であり、教職員一人一人が勤務時間を意識し、業務の効率化に努めるとともに、休暇等を取得しやすい勤務状況を構築していきたい。また、校務分掌や学年・ブロック単位の組織で業務の精選を行うとともに、学校行事においても感染症対策を踏まえた実施計画の見直しを図り、限られた時間で最大の効果が得られるようにしていく。
- ・ 図書館情報教育の公開授業研究会での研究成果を活かしながら、主体的・対話的な学習の充実を目指した授業改善を全校体制で取り組んでいく。また、GIGAスクール構想推進に向け、ICT機器について情報を共有しながら有効な活用方法を研究していきたい。
- ・ 校内での挨拶を校外につなげていけるよう発達段階に応じて挨拶の意義や心的効果について指導し、自発的な挨拶の啓発に努める。関連して、地域学校園でのあいさつ運動や南ブロック地域あいさつ運動を大いに活用していく。また、いじめ防止の指導に関しては、定期的に位置付けられたいじめアンケートや教育相談を実施し、いじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、校内で行っているいじめ防止対策の活動をHPや学校だより、学年だより等で積極的に発信することで保護者や地域住民の理解を得ていきたい。
- ・ 感染症対策を講じることで体育的な行事や活動が制限される中ではあるが、ICT機器を活用することで模範的な動きを児童に視覚的に示し、分かる授業を展開していく。また、各種検定（水泳・鉄棒・なわとび）を地域学校園で見直し、データベースを作成して共有することで、連携を図った取組を推進していく。